

道

NO. 110

2012. 10. 26

合唱曲の紹介

全員合唱『マイバラード』

一、みんなで歌おう
心をひとつにして
悲しい時も つらい時も
みんなが歌おう
大きな声を出して
恥ずかしがらず
歌おうよ

心もえる歌が
歌がきつと君のもとへ
きらめけ 世界中に
さらめけ 世界中に
とどけ 愛のメッセージ

二、みんなで語ろう
心をなごませて
楽しい時も うれしい時も
みんなが語ろう
素直に心開いて
どんな小さな悩み事も
心いたむ思ひ
たとえ君を苦しめても
仲間がここにいるよ
いつも君を見てる
僕らは助け合って
生きてゆこう
いしまさあめ
※くり返し

課題曲『自分らしく』

二、いろいろなことがあっても
自分を嫌になつた
なぜ僕だけがこんな目に遭うと
他人を羨んだりもしたさ
荒んだ心に刺さつたのは
意外な奴の言葉だつた
も(う)一度
も(う)一度 あの空を
飛べるかもしれないと思つた
張り裂けるような
悲しみの行き場
煮えたぎるような
憎しみの出口
時よ おまえは見えてきたのだから
憎しみの極みを
戦いの果てを

誰かが夢を追いかけてる
自分らしさを求めて
※ 新しい出会いの中に
すばらしい未来が見える

同じような毎日が ただくりかえすだけの
味もそつけない暮らしに 終止符をうつために
迷い道をすり抜けて ここまでたどりついた
自分らしく生きることの むずかしさを感じながら
誰かに助けを求め 弱気になつた時もあったが
今はもう心配いらぬ
※繰り返し

喜びも悲しみも 本気で生きていけば
どれもこれも自分だけの記念日になるから
回り道をくりかえし いつの日にか気付いた
自分らしく生きることの 本当のすばらしさを
明日に不安を抱き 内気になつて悩んでたが
今はもう輝いてる
※繰り返し

la la la.....
新しい出会いの中に
すばらしい未来が見える

自由曲 4組 『地球の鼓動』

聞こえてくるだろう 地球の鼓動が
寄せては返す波 はるかな時を越え
青い海原に 白い帆をあげて
風を感じたとき やさしさに抱かれる
空を焦がし 昇る太陽
憧れよりも もっと遠くに見える
夢の破片 探しに行く朝が来たよ
春には春の 花が咲きほこり
夏には夏の 鳥が舞うよ 大空高く
もしもきみが いつの日にか
ひとりぼっちだと
めげそうな夜があつたとしても
秋には秋の 星が瞬いて
冬には冬の 雪が頬で溶けていくよに
いつだって そばにいるよ
そっと包み込む 地球の
鼓動が聞こえてくるだろう

1組 『あなたへ』

一、白木蓮にも似た
その白い翼で
まだ見ぬ世界、未来という
果てしない空へ
旅立ってゆくのですね
まばゆいほど輝いて
旅立ってゆくのですね
温かな果をあとにして
愛と涙
そして知るだろう
人生という名の迷路の果てに
信じ合えることの喜びと
悲しみを知つた分
優しくなれることを

二、いろいろなことがあっても
自分を嫌になつた
なぜ僕だけがこんな目に遭うと
他人を羨んだりもしたさ
荒んだ心に刺さつたのは
意外な奴の言葉だつた
も(う)一度
も(う)一度 あの空を
飛べるかもしれないと思つた
張り裂けるような
悲しみの行き場
煮えたぎるような
憎しみの出口
時よ おまえは見えてきたのだから
憎しみの極みを
戦いの果てを

愛と涙
あなたの手の温もり
人生という名の迷路の果てに
信じ合えることの喜びと
悲しみを知つた分
優しくなれる

時の女神よ
教えてください
握り合えない
手と手ならば
隔てる心の壁がいつか
癒され なくなる日は
くるのでしょうか
手と手をつなぎ
その手をかざそう
人生という名の迷路の果てに
信じ合えることの喜びと
悲しみを知つた分
優しくなれる

2組 『心の瞳』

心の瞳で 君を見つめれば
愛すること それが
どんなことだかわかりかけてきた
言葉で言えない 胸の暖かさ
遠まわりをしてた 人生だけど
君だけが いまでは
愛のすべて 時の歩み
いつも そはで わかち合える
たとえ あしたが 少しずつ 見えてきても
それは 生きてきた 足あとが あるからさ
いつか 若さを 失しても 心だけは
決して 変わらない 絆で 結ばれてる

夢のまた夢を 人は見てるけど
愛すること だけは いつの時代も
永遠のものだから
長い年月を 歩き疲れたら
微笑なげかけて 手をさしのべて
いたわり合えたら
愛の深さ 時の重さ 何も言わず
わかり合える
たとえ 過去を 懐かしみ ふり向いても
それは 歩いてた 人生が あるだけさ
いつか 若さを 失しても 心だけは
決して 変わらない 絆で 結ばれてる
愛すること
それが どんなことだか
わかりかけてきた
愛のすべて 時の歩み いつも そはで
わかち合える

心の瞳で 君を見つめれば……

3組 『手紙』

拝啓 この手紙読んでいるあなたは どこで何をしているのだろう
十五の僕には誰にも話せない 悩みの種があるのです
未来の自分に宛てて書く手紙なら
きっと素直に打ち明けられるだろう
今 負けそうで 泣きそうで 消えてしまいそうな僕は
誰の言葉を信じ歩けばいいの？
ひとつしかないこの胸が何度もばらばらに割れて
苦しい中で今を生きている
今を生きている

拝啓 ありがとう 十五のあなたに伝えたい事があるので
自分とは何でどこへ向かうべきか 問い続けられ見えてくる
荒れた青春の海は厳しいけれど
明日の岸辺へと 夢の舟を進め
今 負けないで 泣かないで 消えてしまいそうな時は
自分の声を信じ歩けばいいの
大人の僕も傷ついて眠れない夜はあるけど
苦くて甘い今を生きている

人生の全てに意味があるから 恐れずにあなたの夢を育てて
Keep on believing

負けそうで 泣きそうで 消えてしまいそうな僕は
誰の言葉を信じ歩けばいいの？
ああ 負けないで 泣かないで 消えてしまいそうな時は
自分の声を信じ歩けばいいの
いつの時代も悲しみを避けては通れないけれど
笑顔を見せて 今を生きていこう
今を生きていこう

拝啓 この手紙読んでいるあなたが
幸せな事を願います

道

NO. 111

2012.10.26

明日は最後の文化祭！

向島中での最後の合唱コンクールに向けて、2週間という時間をかけて各クラスが練習に取り組んできました。とうとう、本番の舞台で歌う時がやってきたのです。

1年生の時は、クラス全体がなかなかまとまらず、声を出すことが大変でした。しかし、取り組みが重なるたびにみんなの1年生の歌声は響き渡るようになり、当日はプレッシャーをはねのけて、どのクラスも1年生らしい発表を魅せてくれました。その中で金賞を獲得したのは、3組でした。

翌年、みんなには下級生ができて、上級生という立場でも周囲から見られるようになり、自分たちで練習を進めていけるようになっていきました。明らかに1年生の時に比べて、成長の跡がうかがえ、高いレベルの合唱に進めてくれました。そして、金賞を獲得したのは2組でした。

そして今年、最上級生となったみんなは、自分たちで練習を進め、話し合い、工夫してクラス合唱に取り組んできています。最後の合唱コンクールへ向けて……。その素晴らしさは、学年リハーサルの出来事そのものでした。先生方の指示を受けることなく、ただただスムーズにリハーサルが進んでいく。そのスムーズさに3年間の成長を確信することができ、残す練習時間でさらに高い到達点に到達できる予感がしました。その後、みんなはさらにクラス合唱のレベルをあげるべく頑張ってきてくれたと思います。そして明日、いよいよ本番の舞台を迎えることになりました。心の準備はできているでしょうか？明日の最後の朝練習で、今までの確認をしっかりと行って体育館へ行きましょう！！

体育館では、ピーンと張り詰めた空気になるに違いありません。合唱コンクールでは、

ちょっとした雑音が気になるほどの緊張感の中、各学年・クラスの合唱が発表されていくことでしょう。1年生の発表は、2年前の自分たちの姿とダブらせてしっかりと聴いてあげよう。2年生の発表は、レベルがあがった2年生の合唱を昨年の自分たちとダブらせて聴こう。そして、3年生全体の合唱は、今までの取り組みを思い出しながらそして、これから始まる合唱に向けて、クラスみんなとの確認事項を確認し、これからの時間に再度集中し直すために、しっかりと声出ししよう。

それから、自分たちのクラス合唱の最善を尽くそう。終わったら、3年間共に行事に取り組んできた仲間の合唱を心から聴こう。そして、心から拍手をしよう。クラス集団としての取り組みはあるものの、みんなの3年間の行事は4クラスの仲間があつてこそ。だから、みんなでやろう！！そんな合唱コンクールにしよう！！

そして、合唱コンクールが終了したら、発表団体の発表をしっかりと見たり、聴いたりしよう。部活動では、この発表で最後となり、下級生に任せることになる部活動もあるかもしれません。4月当初から、この発表に向けて準備をしてきた発表団体もあります。合唱コンクールが終了したからといって、気が抜けてしまって、発表団体に失礼になるような行動は慎もう。そうしてみんなが一人一人心がけて、いい文化祭にしよう。

一人一人が主役の合唱コンクール！

一人一人が主役の文化祭！！

来週の予定

	29日(月)	30日(火)	31日(水)	1日(木)	2日(金)
予定		朝学習	朝学習	朝学習	朝学習
1	振	授業	授業	授業	授業
2	替	授業	授業	授業	授業
3	休	授業	授業	授業	授業
4	業	授業	授業	授業	授業
給食	日	あり	あり	あり	あり
5		授業	授業	授業	授業
6		学活		授業	総合
備考		セーフティ 教室	職員会議	区連合音楽会	演練16時～